

日常場面で経験するポジティブ感情がスポーツにおけるバーンアウト傾向に及ぼす影響

田中, 輝海

<https://doi.org/10.15017/1785348>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（心理学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	田中輝海			
論文名	日常場面で経験するポジティブ感情がスポーツにおけるバーンアウト傾向に及ぼす影響			
論文調査委員	主査	九州大学 准教授	杉山佳生	
	副査	九州大学 教授	西村秀樹	
	副査	九州大学 講師	内田若希	
	副査	九州大学 准教授	古賀聡	

論文審査の結果の要旨

本論文は、大学生男性スポーツ競技者において、日常でのポジティブ感情の経験が競技に対するバーンアウト傾向にどのように影響しているのかを明らかにしようとしたものである。研究1では、バーンアウト傾向に対し、ポジティブ感情経験が抑制効果を、ネガティブ感情経験が促進効果を有することが確認された。研究2では、ポジティブ感情経験は、ネガティブ感情経験がバーンアウト傾向に及ぼす影響を調整する役割を果たしているのではなく、ネガティブ感情経験とは独立して、バーンアウト傾向に作用していることが示された。研究3では、ポジティブ感情経験は、直接的に、あるいは、問題焦点型コーピングの採用を通して間接的に、バーンアウト傾向の悪化を抑制していることが示唆された。これらの一連の研究から、競技に対するバーンアウト傾向を抑制するために、ポジティブ感情経験が重要な役割を果たしていることが明らかにされており、本論文は、健康・スポーツ心理学領域に、貴重な知見をもたらす研究であるということが出来る。よって、本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。